【資料4－2】

官民プラットフォーム 説明資料

2026年10月29日

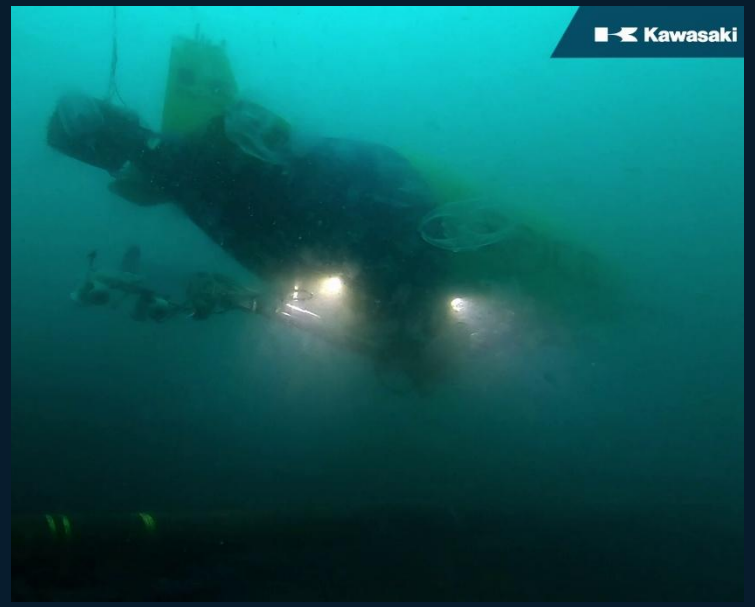
洋上風力発電施設の水中O&Mにおける海洋ドローン活用基本計画の策定

KHIの水中ビークルを軸に、実証と事業モデルの構築を通じて社会実装へ

川崎重工業株式会社

艦艇特殊船プロジェクト企画部

実施体制：川崎重工業株式会社（代表実施者）
共同実施者：ホライズン・オーシャン・マネジメント株式会社







2026年3月撮影｜SPICE（AUV）実証の様子（写真4枚）



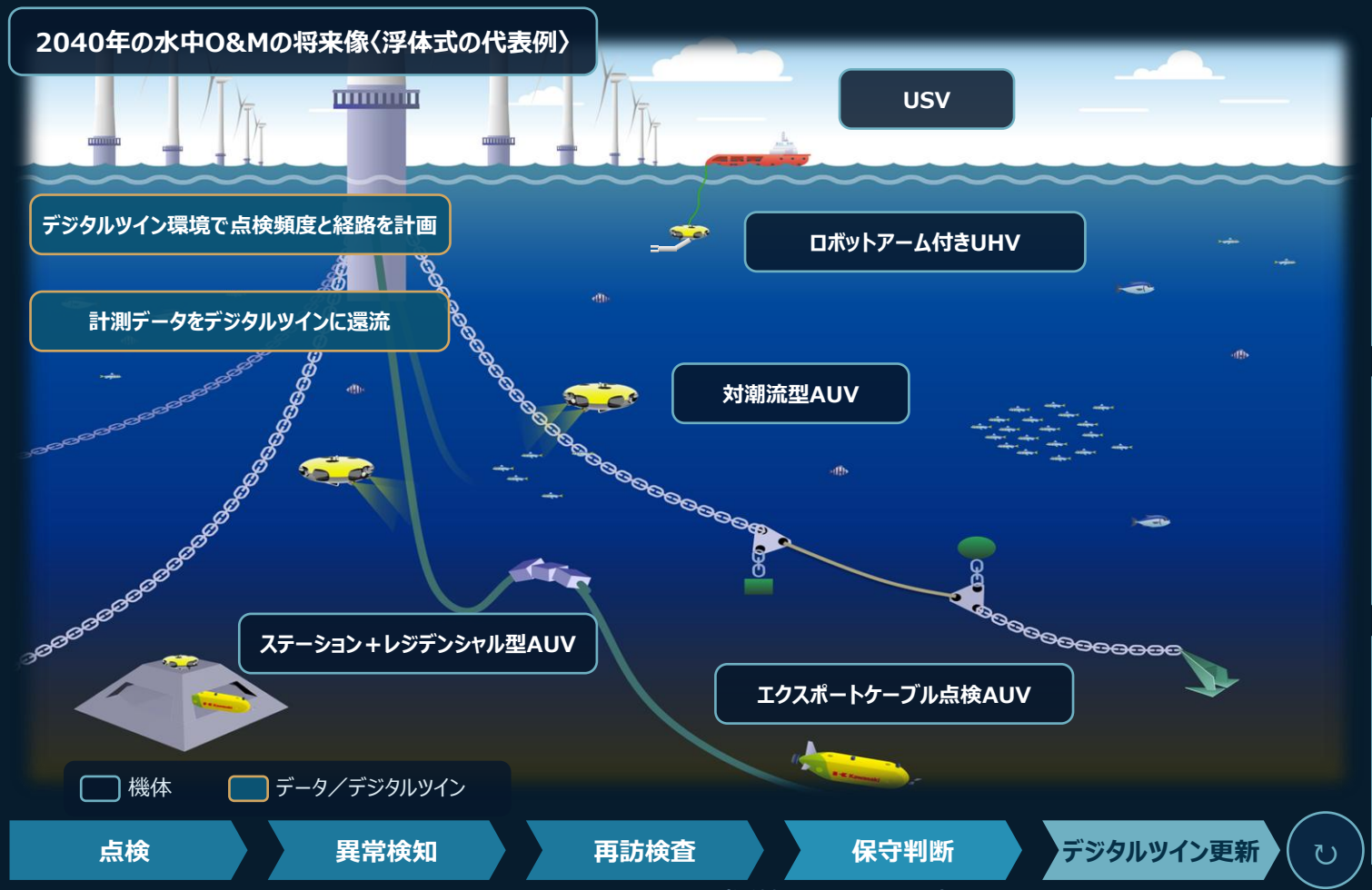
※本資料の目標・活用モデル・実証段階・事業形態は、KHIの検討案および検証仮説です。詳細は基本計画策定の中で具体化します。UHVは開発中、SPICEのケーブル追従は開発・検証対象です。

© Kawasaki Heavy Industries, Ltd. All Rights Reserved

Kawasaki
Powering your potential

2040年：水中点検は自律化し、保守運用は陸上から支える

点検の省人化とデータの継続活用により、安全で持続可能な保守運用を目指す。



※SPICE：Subsea Precise Inspector with Close Eyes （近接トレース型AUV）
UHV：Underwater Hybrid Vehicle（対潮流・半自律型ROV）

目指すのは「水中ドローンの導入」ではなく、「保守運用の変革」。

水中点検の自律化・遠隔化

基礎・係留系・海底ケーブル等を、対象に適した海洋ドローンで点検。
海上出動や潜水作業を抑え、陸上から運用を監督。

点検データを保守判断へ

点検結果を蓄積し、設備の状態変化を把握。
再点検の要否、保守の優先順位、点検頻度の見直しに活用。

継続して使える運用・サービスへ

機体に加え、運用支援・整備・データ活用を含む提供体制を検討。
複数海域・複数サイトへの展開を目指す。

© Kawasaki Heavy Industries, Ltd. All Rights Reserved